

構文的イディオムとしてのMP away from*

MP away from as a Constructional Idiom

松山 哲也

Tetsuya MATSUYAMA

(和歌山大学教育学部英語教育専修)

2012年10月5日受理

Abstract

This paper suggests an analysis of the MP (Measure Phrase) *away from* construction, exemplified by *He is just a few days away from dying*, along the lines of Conceptual Semantics (Jackendoff (1983, 1990)). It will be observed that the construction is semantically parallel to comparative constructions such as *Sue is three inches shorter than Bill* in some respects: (i) *away* expresses a path, similar to comparative adjectives, and (ii) the MP specifies distance along the path. Building upon Jackendoff's (1983) treatment of comparative adjectives as expressing an unbounded path, we propose to analyze the MP *away from* construction as having a similar conceptual structure to the comparative construction. It will be argued that the construction manifests a syntax-semantics mismatch: *away* behaves syntactically as an adverbial but semantically as a head.

1. はじめに

現代英語では、ある事態が実現に及んでない状況を *away from* の前置詞を使って表現することがある。

- (1) a. "Nadeshiko Japan" is now one win away from claiming the country's first-ever world title at any level.

(*The Japan Times*, July 17, 2011)

- b. The United States is decades away from achieving any of these goals, however.

(COCA)¹

(1a)は「なでしこジャパンはあと1勝で日本初の世界タイトルをとる」を、(1b)は「合衆国がこれらの目標のいずれかを果たすには数10年かかる」を意味している。前者は動名詞補文が表す事態の実現が近いことを、後者は遠いことをそれぞれ表しているが、いずれも実現が未だなされていないことを伝えている。²

(1a, b)のような表現は *away* の前に数量を表す度量句 (Measure Phrase) を伴うことが多い。この点を考慮して、当該表現を便宜上、MP *away from* (構文) と呼ぶことにする。

この構文を扱った先行研究は乏しいが、記述的な研究として松山(2011)がある。³ 松山(2011)は、MP *away from* が、「時間的な近接性」を表すタイプ((1a))と「未到達」を表すタイプ((1b))に分かれ、それぞれ

に下位タイプがあることを論じた。しかし、意味的基準から当該構文を分類しただけで、統語的・意味的特徴を十分に考察していなかった。本稿は、それに関連して次のような3つの目的がある。第1に、MP *away from* の統語特徴を記述し、それらを捉えられる統語構造を提案する((2節))。第2に、類似の構文と比較しながら、当該構文の意味特徴を記述する((3, 1節))。ここでの考察から明らかになることは、MP *away from* が補文事態を基準点にして主語までの「差」を逆方向に測定していることである。第3に、概念意味論 (Jackendoff (1983, 1990)) の枠組みで、MP *away from* が比較構文と平行した概念構造をもっていることを論じる((3, 2節))。さらに、MP *away from* は *away* が統語的に副詞的要素であるものの、意味的には主要部となっているという統語と意味のミスマッチを伴う「構文的イディオム」であると特徴づける。

2. MP Away from 構文の統語構造

MP *away from* は、発話時からみればまだ生じていない未来の表現を表す点で時間的な表現である。時間表現は、空間表現からの意味拡張で派生する。したがって、MP *away from* の意味的基盤となっているのは、空間の「起点」を表す *away from* であると考えられる (Jackendoff (1983))。まずここでは、MP *away from* を「空間」の *away from* と比較することによってその統語特徴を明らかにする。

MP away fromは、基本的な形式として、away fromの前にMPが、fromの後に補部が伴う。まず、この補部について比較してみよう。「空間」のaway fromの補部には典型的に「場所」や「人」を表す具象名詞が生起する((2))。一方、MP away fromの補部には、「事象」を表す抽象名詞((3a))、叙述名詞((3b))、V-ing ((1a, b))、Acc-ing((3c))が現れる。

(2) Sue is two miles away from {home/me}.

(3) a. At one stage, they are just two points away from *victory*. (LDOCE)

b. He said I was probably several months away from a *full breakdown*. So the whole things stopped for ten weeks.

(Collins Cobuild Dictionary on CD-ROM, 2006)

c. But the numbers are still really small, so we're 10-15 years away from *it being a social movement*. (COCA)

さらに、松山(2011:140)が指摘しているように、代名詞を補部にとって談話機能を果たすこと((4))もできる。

(4) I was not panicking, but was only a hair away from *it*, my words coming fast and breathlessly.

(P. Allison, *Whatever You Do, Don't Run*(2007))

MP away fromは、種々の補部をとることのできる点で統語的柔軟性がある。⁴ このことは、構文のタイプ頻度が高く、その表現の生産性も高いことを示唆している(早瀬・堀田(2005))。

次にMPを見てみよう。「空間」のaway fromは、MPの存在が随意的であるが((5a))、MP away fromは義務的である((5b))。

(5) a. They are (*three miles*) away from home.

b. They are* (*three songs*) away from completing the new album.

MPの義務性は、この構文を構成する部分から予測できない個癖的な特徴である。つまり、MPは構文全体で認可される要素であると考えられる。

では、このMPの中にはどのような名詞が現れるのだろうか。典型的には、minute, day, yearなどの時間を表す名詞が来る。さらに、松山(2011)が指摘しているように、MPの中にはone heartbeat(鼓動が聞こえるほどの近さ)、a hair's breadth(間一髪)のような時間幅が極めて短いことを示す慣用的な表現も生起する((6a, b))。

(6) a. I was *one heartbeat* away from telling Miss Gussie everything I knew and then some. (COCA)

b. John knew the man was *a hair's breadth* away from shooting *someone*, whether he meant to or not,... (COCA)

MPには、慣用的な表現を含めて種々の数量化できる名詞が現れ、補文事態の実現の遠近の程度を様々に表すことができる。このことも、MP away fromの生産性の高さを示唆している。

以上の事実から、MP away fromは、(7)のような統語構造を持っていると仮定できる。fromの補部には、名詞句、Acc-ing, V-ingといった範疇が生起できることから、暫定的にXPと表示しておく。

(7) [_{PP} [_{MP}] away from [_{XP}]] (tentative)

MPとXPが開放されたスロットになっており、そのため構文自体が生産的になる。

では、(7)の構造が妥当であるかどうかを統語操作で検証してみよう。(7)では、MP away from XP全体が一つの構成素をなしている。この点は、PP全体がwh移動できることから妥当であることがわかる((8))。さらに、MPだけをwh移動させることができるので((9))、MPは構成素であると考えられる。

(8) *How many songs away from completing the new album are they?*

(cf. *How many miles away from home are they?*)

(9) *How many songs are they away from completing the new album?*

しかし、(7)は、awayとfromの関係を明示的に示していない点で不十分である。一見すると、awayとfromは強く結びついて1つの語を作っているようにみえるが、実際はそうでない。その証拠に、awayは、MPとともにwh移動される((10))。⁵

(10) *What are the aims of this research and how many years away are you from fulfilling them?*

(cf. *How many miles away are they from home?*)

(Google Books Corpus)

さらに、from句はもう1つのfrom句と等位接続される((11))。等位接続される要素同士は、構成素でなければならぬので(Radford(2009:53-54))、fromはXPと構成素をなすと考えられる。

(11) He was a heartbeat away from losing his temper, and from telling Tess that Loomis had been the one to seduce Dante, not the other way around. (Google Books Corpus)

以上の考察から、awayはMPと、fromはXPと強く結びついてることが窺える。したがって、MP away fromは、fromを主要部とした(12)のような構造をしていると考えられる。ここで、副詞(adverb)も句(AdvP)を構成するというRadford(2009)の分析に従って、awayの範疇をAdvPであると仮定する。

(12) [_{PP} [_{AdvP} [_{MP}] away] [_{P'} from [_{XP}]]]

ところで、MP away from全体が、(13)のようにawayを主要部とするAdvPであると分析することも可能かもしれない。しかしこの構造は、(10)の事実を捉えることが難しい。なぜなら、(13)では、MPとawayが構成素をなさないからである。

(13) [_{AdvP} [_{MP}] away [_{PP} from [_{XP}]]]

したがって、fromが構文全体の主要部であるPPとみなすほうが妥当である。

(13)の構造自体は、He lives [_{PP} [_{MP} two miles] away from the station]におけるPPと同じような一般的な句の構造をしている(Jackendoff (1977))。しかし、(i) fromが補部に種々の範疇を選択できること、(ii) MPの中に多様なタイプの名詞が現れること、(iii) MPが義務的であること、(iv) from句が必須であること((14a, b))において、「空間」のaway fromとは異なる。(i)と(ii)は、MP away fromの生産性を支持し、(iii)と(iv)は、句の一般的な原理から導けない構文独自の特徴であることを示唆する。

- (14) a. They are three miles away (from home).
b. They are three songs away* (from completing the new album).

3. MP Away from構文の概念構造

本節では、類似の構文と比較しながら、MP away fromの意味特徴を記述して、その特徴を記述できる概念構造を考える。

3. 1. MP Away from構文の意味特徴

2節の冒頭で述べたように、MP away fromの動名詞補文の事態は、発話時からみれば未だ生じていないことを表し、主語から補文事態へというように「時間的方向性」が感じられる。⁶ さらに、MP away fromは、発話時以前の「前提」がある。例えば、(1a)の文

は、「ナデシコジャパンがすでに何勝かして準決勝を勝ち抜いている」という「前提」がある。この表現が「前提」を伴うことは、stillがよく現れること((15a, b))からも証左が得られる。

- (15) a. President-elect Barack Obama is still weeks away from taking the oath of office. (USA Today, December 23, 2008)
b. Smith said, "But at the same time, we know we aren't finished yet. We're still one step away from completing our goal." (COCA)

Huddleston and Pullum(2002: 710-11)によれば、stillは当該文が発せられる以前にその事態がすでに生じているという「前提」を伴う。例えば、I still think it was a mistakeは、発話時以前も「それが間違いだと思っていた」という前提に加えて、今でもそう思っているという意味を伝える。したがって、stillがMP away fromによく現れるのは、MP away fromが「前提」を伴うからであると考えられる。

この「前提」に加えて、MP away fromは事態が完結するという意味も読み取れる。(1a)は、「次の1勝で日本初の世界タイトルを取る(ワールドカップが終わる)」という、事態が終結する意味合いを伝える。この点は、動名詞補文にcompletelyのような事象の完結を明示する副詞が生起すること((16a, b))や完了相が現れること((17))から裏付けられる。

- (16) a. He was two minutes away from completely blanking out Liverpool's attack when his colleague, the Brazilian Dante Bonfim, failed to cut out the ball for Kuyt's goal. (NYTO, August 28, 2008)
b. She looked as if she was a second away from completely losing control. (Jonathan Zernsky, Beyond the shadows of summer)

(17) We're a dozen plays away from having done that. (COCA)

さらに、MP away fromの補文に来る述語は、アスペクト的に完結点(endpoint)をもつような、到達動詞((18a-d))や達成動詞((18e))である傾向が強い。

- (18) a. Scientists are just one step away from finding the ultimate answer to the ultimate question, ... (NYTO, March 7, 1990)
b. The Yankees were still two days away from arriving at Fenway Park to play the Red Sox for the first of 19 times

- this season, ... (NYTO, April 13, 2002)
- c. Now they are one game away from *reaching* the Super Bowl.
(NYTO, January 10, 1988)
- d. He is days away from *becoming* the first Texas governor in 25 years to be re-elected to a consecutive term. (COCA)
- e. The Obama administration is now one week away from *completing* its first year in office. (NYTO, January 13, 2010)

実際、完結点がない write shorthand は、MP away from とは整合しない ((19a))。ただし、write shorthand は、完結点に向けての時間的変化のある述語 (be able to) に埋め込まれると容認可能となる。

- (19) a. *John was quite a few days away from *writing shorthand*.
b. John was quite a few days away from *being able to write shorthand*.

このように、MP away from の動名詞に生起する動詞はアスペクト的に完結したものが多くことが窺える。⁷

事態が終結する点を「到達点」と呼ぼう。その「到達点」を黒丸で、過去から未来への「時間的方向性」を矢印で、「前提」を松葉カッコで表すと、(1a) の意味は概略 (20) のように図示される。

(20) MP away from の意味



点線の松葉カッコ (one win) は、主語がいる現在と到達点との間の距離 (「差」) を表している。つまり、すでに何勝かしていることを前提とした上で、到達点に達するにはまだ1勝足りないことを述べている。

ところで、ここで1つの疑問が生じる。池上(1981)が論じているように、英語は「起点」より「到達点」への志向性が高い言語である。したがって、「到達点」を表示するには、(21a, b) のように to などの前置詞を用いるのが一般的である。

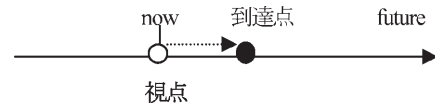
- (21) a. John is close *to* losing his temper.
b. John came near *to* missing his flight.

しかし、MP away from 構文では、「起点」の表示であるはずの from が、「到達点」を指すのに用いられている。それはなぜであろうか。

この問題は、視点 (perspective) と関係していると考

えられる。close to は、概略 (22a) のように、主語に視点をおいてそこから「到達点」を眺めている。主語を円で、視点の方向を点線の矢印で示す。いま右向きの矢印を順方向 (forward)、左向きの矢印を逆方向 (backward) と呼ぶと、close to は、時間と視点のどちらもが順方向と考えられる。一方、MP away from は、(22b) のように、補文事態に視点をおいてそこから振り返って主語の位置をみている。

(22) a. close to



b. MP away from



MP away from は、時間順序が順方向であるものの、視点は逆方向である。すなわち、補文を基準にして、そこから主語が位置する時点までの距離 (one win) を逆方向に測っているのである。⁸

補文事態は、時間軸からみれば「到達点」と捉えられるが、視点のレベルからみれば「起点」として働いている。そのため、起点の from が用いられるのである。

3. 2. MP away from と比較構文

MP away from 構文の際立った特徴は、(22b) が示すように、from に続く補部を基準にして主語がいる現時点までの距離 (差) を測っていることである。この種の測定は、次の文に顕著に現れている。

- (23) Mr. Rogers is but 14 months away from turning 65, ... (COCA)

(23) は、「ロジャーさんはあとたった14ヶ月で65歳になる」ことを意味する。この場合、「ロジャーさんの現在の歳に14ヶ月を足して65歳になる」というような順方向の累加的な計算でなく、「65歳から現在の歳を引いた差が14ヶ月である」というように逆方向の計算をしている。つまり、主語がいる時点を基準点としてそこから到達点 (65歳) までの差 (14ヶ月) を測ったものでなく、到達点 (65歳) を基準点としてそこから主語がいる時点までの差 (14ヶ月) を逆方向に測っている。

この種の尺度の測定は、比較構文にも観察される。例えば (24) では、than の目的語である Bill を基準点としてそこから Sally との背高の差 (three inches) を測っていることが読み取れる。

(24) Sally is three inches shorter than Bill.

比較構文との関係で注目したいのは、(25)のGruber (1976: 89-90)の指摘である。彼女は、All the workwomen are away from here on vacationの文を取り上げて、away fromと比較表現が意味的に類似していることを述べている。

(25) “In such a non Motional usage, we see the similarity between *away from* NP and such as expressions *other than* NP, *more than* NP, *rather than* NP, pairs of phrases which are probably FROM-TO patterns of an abstract nature. The first-word, adjective or adverb of some sort, underlyingly involves a TO-phrase and *than* is essentially **FROM**.”

(25)によれば、比較級とawayはTOを、thanとfromはFROMを意味的基盤としている。thanとfromの意味的類似性は、双方がdifferentの補部として交替可能であること((26))からも独立した証拠が得られる。

(26) New York speech is different {*from/than*} that of Chicago. (『ランダムハウス英語辞典』)

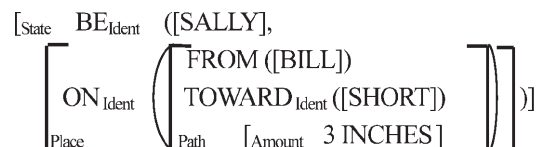
次に、awayと比較級の意味的な類似性について考えよう。Jackendoff (1983: 196-197)は、形容詞(The ball became *small*.)とその比較級(The ball became *smaller*.)は、「有界性」において異なることを述べている。前者は、ボールが小さくなるという事象が終結するが、後者では、その事象が必ずしも終結せずに、ボールが徐々に小さくなる過程が際立っている。つまり、原形の形容詞は、TOを関数とした有界の「経路」であるのに対して、比較級は、TOWARDを関数とした非有界の「経路」である。

同様に、awayも非有界の「経路」を表すと考えられる。『英語語源事典』(寺澤芳雄編)によれば、away (*aweg, on weg*)の原義は「向かって、近づいて(on the way)」である。すなわち、TOWARDと同じように「方向性(非有界性)」を表している。さらに、Marantz (1992)が指摘する(27a, b)の文法性の相違もawayが「経路」を表していることを示唆する。彼は、(27a, b)の相違について、goがその行為が測定される「経路」を必要とするためだと述べている。fromだけではgoの行為が測定される「経路」が存在しない。一方、awayを加えれば、goの行為が測定される「経路」が現れる。そのため(27b)は適格になる。

(27) a. *He went from Chicago.
b. He went away from Chicago.

以上のことを念頭に、Jackendoff (1983: 197)の比較構文の分析を見てみよう。彼は、(24)の比較構文に(28)のような概念構造を与えている。

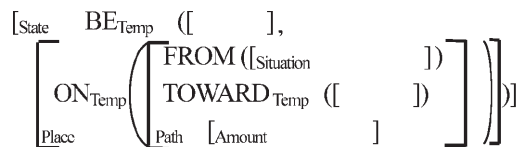
(28) 比較構文の概念構造



thanは、概念関数FROMとして、shorterは、TOWARDを関数とした非有界の「経路」としてそれぞれ表されている。FROMの項であるBILLは、「経路」を規定する基準点として働いている。その基準点から「経路」に沿って測られた「距離」がAmountである。「場所(Place)」は、関数BEによって要求される概念範疇である。

上述のようにawayも非有界の「経路」であるならば、MP away fromも比較構文と平行した概念構造((29))をもっていると考えるのも不思議でない。

(29) MP away fromの概念構造



MP away fromは、2節でみたように、未来の事態を表す時間表現である。したがって、MP away fromの意味領域は、比較構文と異なり、「時間場(temporal field)」となる。awayは、非有界の「経路」を、FROMはその「経路」の「起点」を表す。FROMの項Situationは、「経路」を規定する基準点として働いている。Amountは、その「起点」から「経路」に沿って測定された「距離」(差)を表している。こうして、「補部を基準点としてMPの距離を逆方向に測定する」というMP away fromの意味特徴((21b))が捉えられる。⁹

ここで、概念構造(29)の適切性に関して2つの疑問が生じる。(i) awayが比較級と同じように非有界の「経路」として表される独立した証拠はあるのか。(ii) BEによって要求される「場所」を示す証拠はあるのか。

(i)に関しては、a great dealのような量名詞句から証拠が得られる。Huddleston and Pullum (2002: 549-550)によると、量名詞句は、比較表現だけを前置修飾できる((30))。

(30) *a great deal smaller, a lot different, lots better*

量名詞句は、比較されているものの差を強調する。例えば、*a great deal smaller*は、*smaller*よりも程度の差を強調していることになる。同様の修飾は、MP *away from*でも可能である((31))。

(31) After reading this article I think it is safe to say Qatar even though it has come a long way, is still *a great deal away from* being able to host World Cup 2022.

(<http://mymorningjoe.com/fifa-says-qatar-2022-world-cup-bid-faces-logistical-challenges/>)

このように*away*も量名詞句によってその程度の差が強調される。このことから、*away*も非有界の「経路」を基盤としていて考えても不自然でない。

(ii)は、*remain*の補部を考察することで答えが得られる。Gruber(1976:156)によれば、*remain*の補部には、(32a-c)のように「場所」を表す範疇だけが生起する。「動作」を表す動詞的受け身は、*remain*の補部には現れることができない((32d))。

- (32) a. Bill remained *in that room*.
 $[_{Place} At([ROOM])]]$
 b. Bill remained *happy*.
 $[_{Place} At_{ident}([HAPPINESS])]]$
 c. Bill remained *pinned to the wall*.
 $[_{Place} At_{ident}([PIN])]]$
 d. *Bill remained *pushed down the mountain by John*.

MP *away from*も「場所」を表すならば、*remain*の補部を占めることができるはずである。この予測は(33 a, b)から正しいようである。

- (33) a. The Cubs *remain only a few more wins away from clinching the N.L. Central*, ... (NYTO, September 18, 2008)
 b. ..., nuclear-security officials believe terrorists *remain years away from acquiring or building an atomic bomb*. (Newsweek, April 13, 2010)

以上の考察から(29)はMP *away from*の意味を捉えているように見えるが、不十分な点がある。*from*をとる補部には否定対極表現((1 b)の *any of these goals*)がしばしば現れる。すなわち、*from*は否定の意味を内在している。(29)のようにFROMとしたままで

は、否定の意味が適切に捉えられない。ここで、Jackendoff(1983:200)の *Sue kept Jim from singing* に分析を従って、FROMを(34)のようにNOT-ATとして表示することにする。¹⁰このNOTが*from*の補部に現れる否定の意味を表し、NPIの生起を認可する。

(34) MP *away from*の概念構造

$$\left[\begin{array}{c} \text{State} \\ \text{BE}_{Temp} \end{array} \left(\left[\begin{array}{c} \text{NOT-AT}_{Temp} \left(\left[\begin{array}{c} \text{Situation} \\ \text{TOWARD}_{Temp} \left(\left[\begin{array}{c} \text{Place} \\ \text{Path} \end{array} \right] \left[\begin{array}{c} \text{Amount} \end{array} \right] \end{array} \right] \right) \right] \right) \right] \right) \right]$$

このように、MP *away from*と比較構文は、意味場が異なるものの、概念構造は平行している。ただし、両者はAmountに関して異なる。MP *away from*はAmountが必ず具現しなければならないのに対して((5 b))、比較構文はその必要がない((35))。

(35) She is (*two inches*) taller than John.

このことは、Amountが表現全体で認可される要素であって、MP *away from*が比較構文よりも有標な「構文」であることを示唆している。

最後に、概念構造(34)とその統語構造(12)との対応を考えよう。(12)を再び(36)として下記に示す。

(36) $[_{PP} [_{AdvP} [_{MP}] \text{away}] [_{P'} \text{from} [_{XP}]]] (= (12))$

(34)と(36)を比較すると、概念構造と統語構造の間にミスマッチがあることに気づく。*away*は、概念構造(34)において「経路」の概念関数TOWARDに相当して、いわば意味的な主要部となっている。¹¹一方、統語構造(36)において表現全体の主要部となっているのは*away*ではなく*from*である。したがって、MP *away from*は、統語と意味のミスマッチを反映した「構文的イディオム(constructional idiom)」として特徴づけられる(Jackendoff (1990, 2002))。

4. 結語

本稿では、MP *away from*構文の統語特徴と意味特徴を記述し、それらを適切に記述できる統語構造と概念構造を考察した。統語的には、MPと*from*の補部がスロットとなって、生産的構文であることを示した。さらに、MP *away from*と比較構文は、(i) *away*と比較級が非有界の「経路」を表す点、(ii) MPがその「経路」の「距離」を表す点、(iii) その「距離」が逆方向に測定される点において似ていることを示した。これらの類似性をもとに、MP *away from*は、比較構文と平行した概念構造をしていることを論じた。最後に、MP

away fromは、awayが統語的には付随的要素であるのに対して、意味的には主要部となっている点で、統語と意味のミスマッチを伴った「構文的イディオム」であると分析した。

参考文献

- 秋元実治(2002)『文法化とイディオム化』東京：ひつじ書房
- Dirven, René and Günter Radden(2007) *Cognitive English Grammar*, Benjamins, Amsterdam.
- Gruber, Jeffrey S.(1976) *Lexical Structure in Syntax and Semantics*, North Holland, New York.
- 早瀬尚子・堀田優子(2005)『認知文法の新展開 カテゴリー化と用法基盤モデル』東京：研究社出版
- Huddleston, Rodney. D. and Geoffrey K. Pullum. (2002) *The Cambridge Grammar of the English Language*, New York: Cambridge UP.
- 池上嘉彦(1981)『「する」と「なる」の言語学—言語と文化のタイプロジーへの試論』東京：大修館
- Jackendoff, Ray(1977) *X-bar Syntax*. Cambridge, MA: MIT Press.
- Jackendoff, Ray(1983) *Semantics and Cognition*, Cambridge, MA: MIT Press.
- Jackendoff, Ray(1990) *Semantic Structures*, Cambridge, MA: MIT Press.
- Jackendoff, Ray(2002) *Foundation of Language: Brain, Meaning, Learning, Grammar, Evolution*. Oxford, UK: Oxford University Press.
- Marantz, Alice(1992) “The Way-construction and the Semantics of Direct Arguments in English: A Reply to Jackendoff,” ed. by Stowell, Tim and Eric Wehrli, *Syntax and Semantics 26: Syntax and the Lexicon*, 179-188, Academic Press.
- 松山哲也(2011)「MP away from V-ing 構文の意味的多様性」『英語語法文法研究』18号, 126-142.
- Quirk, Randolph, Sidney Greenbaum, Geoffrey Leech, and Jan Svartvik. (1985) *A Comprehensive Grammar of the English Language*, London: Longman.
- Radford, Andrew(2009) *An Introduction to English Sentence Structure*, New York: Cambridge UP.
- 澤田治(2010)「日本語の累加表現におけるスケール構造について: 「もう」と「あと」を中心に」、日本言語学会第140回大会ワークショップ資料(「スケール構造に基づく語彙意味論・語用論に対する形式的アプローチの進展」)

辞書・コーパス

- Collins Cobuild Dictionary on CD-ROM 2006
- Longman Dictionary of Contemporary English(5th edition) [LDOCE], 2009.
- Oxford English Dictionary on CD ROM (Ver. 4.0) [OED], 2009.
- 『ランダムハウス英語辞典 [CD-ROM]』小学館
- 寺澤芳雄(編) (1997)『英語語源事典』東京：研究社
- COCA [Corpus of Contemporary American English]
- COHA [Corpus of Historical American English]
- Google Books Corpus

* 本稿は、日本言語学会第141回大会(2010年11月)で行った研究発表に加筆・修正を加えたものである。会場で貴重なコメント

をしてくださった先生方に感謝申し上げます。また、インフォーマントとしてご協力してくださったLeonard Landmark氏とPhilip Adamek博士にも感謝の意を表したい。なお、本稿の不備はすべて筆者の責任である。

- COCA, COHA, Google Books Corpusはプリガムヤング大学のMark Davies博士(<http://davies-linguistics.byu.edu/personal/>)が提供しているコーパスである。COCAは1990から2011年の米語のコーパス(現時点で延べ語数は4億250万語強)。COHAは1810年代から現在に至る通時的なコーパスである。
- 動名詞を選択するaway fromはban, hinder, keep等の補部にも観られる。このaway fromは、「～させないようにする」という「阻止」の意味を表す点でMP away fromと異なる。
- 松山(2011)が指摘しているように、MP away fromは比較的最近になって英語で使われ始めた新規表現であるかもしれない。COHAでは、この構文の使用は1930年代から散見され1990年代から著しくなることが確認できた。BNC(1970年代から1993年)では1つの実例も採取できなかったが、1990年以降の米語コーパスであるCOCAでは多くの実例が収集できた。また、OEDで採取できたこの構文の実例は下記だけである。

(i) ... its Relational Differential Encoding(RDE) technology is still about 18 months away from becoming a product that could revolutionize the data communications and storage industries.
- 秋元(2002)が論じているように、この種の統語的柔軟性は、現代英語のfar fromにも観られる。far fromは、Conditionals are still far from ideal.のように形容詞を修飾できるので「副詞」に脱範疇化している。一方、MP away fromは「副詞」に脱範疇化していないようだ(The man is decades away from*(becoming)famous.)。
- インフォーマントの一人は、(i)のようにMPの名詞が時間名詞でなくsongのような普通名詞である場合は文法性が落ちることを指摘してくれた。

(i)*How many songs away are they from completing the new album?

 この問題に関しては、現在のところ明示的な解答がないので、今後の課題としたい。
- 松山(2011)が指摘しているように、away fromには時間的方向性がなく主語と動名詞補文がいわば対称的な関係になっている用法もある。

(i) Kym thought being single was only one step away from being dead.

(T. Thayer, *Wild Goose Chase*)

 (i)は、「独身であること」と「死んでいること」を比較して、双方にはほんの一步の差しかないこと、すなわちほとんど変わらないことを伝えている。(i)は、特定の時間とは無関係に成り立つような状況を描写している点で、特定の時間と関係する(1a)のようなMP away fromとは異なる。
- しかし、この点に関してはまだ検討を必要とするようだ。なぜなら、完結点のないようなhaveやknowが補文に生起するからである。

(i) a. We're two wins away from *having* a ring on my finger, ... (NYTO, May 7, 1995)

b. You're just a few clicks away from *knowing* some risks specific to your business, ... (NYTO, March 7, 1990)
- 澤田(2011)は、逆方向の測定が日本語の「あと」に観られる

- ことを論じている。(22b)の分析は、澤田の「あと」の分析に負うところが大きい。
- 9 起点の前置詞offも動名詞補文を後続させて、未実現の状況を表す。(i)は、「私はこれを理解するには遠く及んでない」というように、動名詞補文が表す事態が実現に程遠い状況を表している。
- (i) I'm still a long way *off* understanding this.
(『ランダムハウス英語辞典』)
- (i)のように表現は、MP away fromと等位接続されることが可能である。このことは、双方が同じ意味を担っていることを示唆する。なぜなら、等位接続された等位項同士は、同じ意味範疇を表すからである(Quirk et al (1985: 967))。
- (ii) "We're *still years off* and *some technological breakthroughs away from* being able to operate on purely a clean-energy grid."
(NYTO, May 27, 2010)
- もしそうならば、(i)のような表現も(21)のような分析が可能であるかもしれない。この点については、今後の課題としたい。
- 10 NOT-ATのNOTは語彙否定であって、文全体を否定する文

法的なものではない。その証拠にMP away fromを付加疑問文にした場合、付加節の極性は否定になる。

- (i) Well, we were ten years away from having won the war, *weren't we?*
(<http://www.bl.uk/projects/theatrearchive/codron4.html>)
- 11 (34)の「経路」における意味的な主要部がTOWARDよりNOT-ATであるという可能性もある(cf. Jackendoff (1990: 57))。TOWARDである一つの理由は、英語は到達点の志向性が高いことにあると思われる(池上 (1981))。「到達点」の前置詞は、移動動詞(comeは除く)と用いることができるが、「起点」のfromはできない。
- (i) a. We drove to Bristol.
b. *We drove from Bristol. (Dirven and Radden (2007: 291))
- Dirven and Radden(2007: 291)は、“the salience of the goal of a motion event is part of our interest in the goals of human action than in their source”のように、「到達点」は「起点」よりも認知的に際立ったものであると述べている。この観点からも、概念構造においてTOWARDが起点のNOT-ATよりも意味的に際立った主要部であると考えても不自然でないだろう。